

鉄道の歴史をめぐる - 鉄道のまちを体感! -

大宮の歴史を語る上で欠かせないのが、「鉄道」です。「鉄道のまち」ともいわれる大宮は、鉄道とともに歴史を刻みながら成長・発展し、東日本の交通の要衝となりました。鉄道文化が息づくエリアを散策しながら、整備が進んだ「今」と「歴史」を体感してみたいはいかがでしょうか。



スタート 大宮駅 道のり 約2.9km

1 大宮駅
 明治18年の開業以来、大宮駅を中心とする発展が大宮の成長につながっています。現在は東北方面や信越方面を結ぶ路線の分岐点として、数多くの路線が乗り入れるターミナル駅へと成長し、東日本の交通の要衝としての役割を果たしています。東西連絡通路では、早朝の始発電車から深夜の最終電車まで、大勢の人が行き交います。

2 行きかう・線(愛称:まめの木)
 大宮駅東西連絡通路には、大宮駅開業100年と埼京線開業を記念して作成された「行きかう・線」があります。二本の線は、交通機関、並びに人間の相互関係を表しており、上方へ伸びて行く姿は、これらの無限の発展を象徴的に表しています。一般公募による「まめの木」の愛称で親しまれ、その周辺は人々の待ち合わせの場所となっています。

3 庚申神社
 庚申神社の祠(ほこら)は、古くから大宮駅構内の一角にあり、鉄道の拡張工事に伴って各所に移りました。しかし、元祠のあった付近で鉄道事故が多発したため、今の鐘塚公園の位置に社が建立され、その後、西口の再開発に伴い現在地に移転されました。

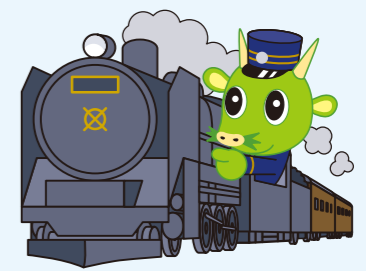
4 鐘塚公園
 鐘塚公園の名は、鐘の音が美しい姫となって現れた物語にちなんで名付けられました。この地は、かつて「庚申神社」がまつられていて、庚申公園の名で親しまれてきました。また、大宮駅開業に尽力し、鉄道のまちの礎を築いた白井助七翁の像もあり、鉄道との関わりが感じられます。

5 赤レンガ倉庫
 現在ではあまり見られなくなった赤レンガの建造物で、かつては大宮工場(現:JR東日本大宮総合車両センター)のお米の貯蔵庫として使われていました。この倉庫は明治30年の建設で、大宮工場の記念物の一つとなっています。

6 準鉄道記念物 D51形式蒸気機関車
 大宮工場で製造されたD51形式蒸気機関車187号機の第1両目の由緒ある機関車です。構成部品の全てを工場独自の力で製作したもので、当時の大宮工場の技術力の高さを現した機関車となっています。

7 鉄道博物館
 JR東日本の創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして、平成19年10月14日の鉄道の日に開館しました。鉄道に関する資料の公開や車両などの実物展示、シミュレーションを使った体験展示や鉄道ジオラマなど、見て、触れて、学ぶことができ誰でも楽しむことができます。(有料)

ゴール 鉄道博物館(大成)駅



大宮・ものしりコラム!

「鉄道のまち大宮」の発展
 明治18年の大宮駅開業後、明治27年に誕生した大宮工場(現:JR東日本大宮総合車両センター)や大宮操車場(現:さいたま新都心)をはじめとする多くの鉄道関係施設が立地するとともに、駅の周辺には商店街が生まれました。駅や施設の近隣には大勢の鉄道関係の職員や家族が暮らすようになり、生活文化とともに地域社会がつけられました。
 また、当時、鉄道は日本の陸上輸送の重要な手段であったため、長野県から大手製糸会社が進出し、日本の最大の輸出品であった生糸が生産され、商工業が飛躍的に発達しました。
 大宮工場では、D51形式蒸気機関車や碓氷峠で活躍した日本初のアプト式電気機関車など、歴史に残る車両が製造されました。
 現在、大宮駅は東日本最大級のターミナル駅として発展し、東北・上越新幹線を始め12路線以上が集まる交通の要衝となっています。

大栄橋
 橋の上からは、新幹線など多くの電車を眺めることができ、「鉄道のまち」として発展してきた大宮の歴史を象徴する風景に出会い、世代を越えて楽しめる場所です。(大宮二十景)



▲「大宮から大きく栄えるようになって欲しい」と願いを込めて名付けられた大栄橋